

2019年事業報告 用語集

項目	用語	意味
事業の経過及びその成果	デジタルマーケティング	Webサイトのみならず、ソーシャルメディア、モバイルアプリ、電子メール、デジタルサイネージまで、あらゆるデジタルメディアをチャネルとするマーケティング手法。位置データや電子ポイントデータなどのデジタル情報を組み合わせて利用するケースもある。
	ビッグデータ分析	一般的なデータ管理・処理ソフトウェアで扱うことが困難なほど巨大で複雑なデータの集合を表す概念であるビッグデータを、ビジネスにおけるマーケティングをはじめ利用目的に応じた観点や手法により抽出、整理すること。
	デジタルトランスフォーメーション(DX)	企業におけるDXとは、利用しうる情報技術を駆使して、新しい製品やサービス、新しいビジネスモデルを創出することで競争上の優位性を確立する取り組みを指す。
	パッケージベンダー	Webベースのクラウド型ではない旧来のクライアント・サーバ型で用いる既成ソフトウェアをパッケージソフトと捉え、パッケージソフトの販売による売上が、収入の過半を占めるソフトウェア会社をパッケージベンダーと称している。
	プラットフォーム	Webベースのクラウド型のソフトウェアやデジタルネットワークを通じた商品やサービスの提供による売上が、収入の過半を占めるIT会社のことを言う。
対処すべき課題	自動車アフターマーケット	自動車が販売されてから発生するメンテナンスや用品取り付け等の2次市場を指す。
	カーシェア・ライドシェア	カーシェアとは、登録を行った会員間で特定の自動車を共同使用することを指す。ライドシェアとは、一台の自動車に複数人数が乗り合わせることを指す。
	アライアンス	異なる立場にある企業同士が、互いの業務の拡大や利益の創出のために提携することを指す。
	eコマースビジネス	Electronic コマースの略で、インターネット上で行われる商品やサービスに関する取引や決済を指す。当社グループでは、eコマースビジネスとして、保有する部品データベース及び自動車車両データベースを活用した、自動車補修部品専門のショッピングサイトを運営している。
	LSEV(Low Speed Electric Vehicle)	低速で移動する電気自動車。
	Maas(Mobility as a Service)	運営主体を問わず、情報通信技術を活用することにより自家用車以外の全ての交通手段による移動を1つのサービスとして捉え、シームレスにつながる新たな移動の概念。
主要な事業内容	サプライ品	見積書や請求書等の発行に必要な用紙、コピー用紙やプリンターのトナー等の消耗品。
	IE(Industrial Engineering)手法	人、設備、材料・資材、情報、エネルギー等の生産資源を有効に活用するための総合的工学技術。当初は製造現場を対象とした改善・向上の技術であったが、その後、行動科学、社会科学、システム工学など多面的な要素を取り込み、多面的な経営管理技術として発展してきた。
	ベストプラクティス	ある結果を得るのに最も効率のよい技法、手法、プロセス、活動などのこと。
	ストック又はトランザクション形式	ストック形式とは、会員を確保することで継続的な利益を得るビジネスモデル。顧客との連続的な接触を保ち続け、長い期間にわたって安定した収益を得ることが期待できる。代表的な事業として通信事業や電力・ガス事業がある。トランザクション形式とは、受発注等の取引ごとに課金して収益を得るビジネスモデル。
	EDI	Electronic Data Interchangeの略であり、電子データ交換と訳される。受発注・出荷・請求・支払などの各種取引データを通信回線を通じて、企業間でやり取りする電子商取引の仕組みのことを指す。

※上記用語は当社2019年事業報告の内容に則した意味となっており、辞典等一般的な用語の意味と異なる場合がございます。